

ホーム名：グループホーム楠根の里 一階					
自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念（その人らしく、心身共に穏やかに、楽しみや、張合いのある暮らしをする）を掲げ、地域密着の意義を、全職員が理解するように常に話している。	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を設定している。理念の実践は、管理者を中心に職員が日々のケア提供シーンを振り返り、理念がケア提供に反映されているのかを確認されている。	今後も管理者を中心に職員一人ひとりが、事業所の理念を理解し、理念をより具体化していくことを大切にケアに取り組んでいかれることに期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	毎日の散歩では、近所の人達と挨拶を交わしたり、毎月、小学より便りを届けて頂き、参加の声掛けを頂いている。	地域の自治会や近隣小学校の行事への参加等の交流を通じて、利用者が地域社会とつながりながら当たり前暮らしを続けられるよう取り組んでおられる。	今後も地域とともに暮らす一員として、地域との行事等を通じた交流を深め、地域で必要とされる活動や役割を担い、地域との関係性を深めていかれることに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	社会福祉会主催の地域での独居の方の鍵預かりをさせて頂き、地域で安心され、生活が出来る様、支援させて頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括の方を交え、二か月に一度、開催している。ホームの現状報告、活動報告、今後の活動報告を行い、ホームで話し合いを実施中。一昨年4月から民生委員が参加されている。	運営推進会議には、地域の代表者や民生委員、地域包括、利用者が参加され、事業所からは、現状報告だけにとどまらず、新たな取り組み状況等も説明されている。	利用者家族の参加が難しい場合は、議事録を家族にも配布したり、施設にこられた家族に説明する等運営推進会議に対する家族の関心を引く工夫を充実していかれることに期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	運営推進会議の開催日時を伝え、議事録を送付している。また、寝屋川元気アップ介護予防ポイント事業のサポーター受け入れ施設として、毎月実施表を送付している。	市の一人暮らしの高齢者の自宅の鍵を預かり、緊急時に鍵を使って安否を確認する”緊急時安否確認（かぎ預かり）事業”等に深く関わり、市との連携を取られている。	今後も継続して、元気アップ介護予防ポイント事業のサポーター受け入れや、緊急時安否確認（かぎ預かり）等の市の事業への協力を通じて、連携を深めていかれることに期待したい。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	元々の設備上、外出時の扉はカード鍵が必要であるが、事務所の扉を開けることで、開放的になるよう努めている。	身体拘束廃止未実施減算の開始に伴い、その基準をベースに身体拘束をしないケアの見直しや職員研修の充実化を行い、身体拘束がないケアの実践に取り組まれている。	今後も継続して、「減算になるから身体拘束をしない」のではなく、身体拘束がなぜ厳しい減算対象になったのか。その理由を全職員で振り返り、共有していかれることに期待したい。
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待を見逃すことのないよう、スタッフ間で話し合いを行い、防止に努めている。		

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>職員へ権利擁護の理解を持ち、活用出来るよう努めている。一階の入居者が成年後見人制度を利用されている。</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時、解約時は、家族様に対し十分な説明を行い理解、納得に努めている。</p>		
10	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関に意見箱を設置し、いつでも感じたことを書いて頂けるようにしている。ただ、なかなか活用に至らない。</p>	<p>家族面会時には、職員から積極的に声がけを行い、意見や意向の確認を行うようにされている。利用者の意見や意向も日頃のケアの中で、確認を行うようにされている。</p>	<p>今後も継続して、面会にこられない家族に対し、どのように関心をもって頂けるのかの試行錯誤を事業所、利用者、家族のそれぞれの事情を考慮しながら、進めていかれることに期待したい。</p>
11	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>スタッフと信頼関係を持つことで、意見、提案を聞き、反映出来る様、努めている。</p>	<p>管理者は、職員からの利用者とのケアでの気づきや考えを丁寧に聞き取り、必要に応じて運営に反映されている。管理者と職員との信頼関係が、迅速な報連相となり、職員は気軽に意見が言える環境になっていることが感じられる。</p>	<p>職員の意見がいつでもどこでもタイムリーに共有が可能となるSNS等を本格的に活用されてはどうか。ミスコミュニケーションの防止にも期待ができるのではないかとと思われる。</p>
12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>各職員が、やりがい、向上心を持つことが出来る職場環境、条件の整備に努めている。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修を各職員に行ってもらい、研修後は研修の記録を記入してもらい、すべての職員が参照し、捺印を行っている。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>地域包括主催の地域ケア会議への参加、CM事業所の連絡会の参加を通し、ネットワーク作り、勉強会に努めている。</p>		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前、各職員へ入居者の情報を伝え、入居者の理解に努めてもらい、職員間でカンファレンスを行い、情報を共有し、入居者との信頼関係づくりに努めている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居の段階で、家族様が困っていること、不安、要望を傾聴し、職員間で共有し、日々の様子観察を報告することで、家族様との信頼関係につなげている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>必要としている支援の見極めには本人、家族様の訴えを傾聴する姿勢を大切にしている。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>8名の方が、家庭的な雰囲気でも過ごせるよう、職員は、個々の方を理解し、支えている。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>ご家族と職員がともに、本人を支えていけるよう、日々の様子を家族様にしっかり報告を行い、共に支えている関係を築いている。</p>		
20	<p>8</p> <p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>本人がこれまでに大切にしてきた馴染みの人や場所との関係を家族様から聞き、継続できるよう支援している。</p>	<p>家族や友人、知人が気軽に面会に来てもらえるような雰囲気づくりや近隣への散歩等を通じて、地域の方と交流を行い、地域との関係性も維持継続できるよう日頃のかかわりの中で様々な工夫をしている。</p>	<p>事業所だけで取り組むことは困難なことも多いので、今後も継続して、家族や地域の支援者を中心に関係継続の輪を広げていけるよう取り組んでいかれることに期待したい。</p>
21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>日々の様子観察、担当者会議を通して、利用者間の関係の理解に努めている。入居者間関係が円滑になるよう居室変更を実施することがある。</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>利用が終了されても、引き続き、相談をされるよう声掛けを行っている。</p>		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との会話を大切にし、家族の方を交え、話し合いの機会を持っている。	職員は、利用者が望む暮らしや何をしたいのか、誰に会いたいのか等と把握するために日々のケアの中で声を掛け、常に把握に努めている。利用者だけでなく家族にも利用者の思いや意向を確認されている。	利用者の思いや意向の把握には、日々のケアを通じた関わりの中でのタイムリーで正確な記録が大切になってくるので、スマホ等の音声認識文字変換アプリ等も活用されていかれることに期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	家族様に聞くこと、以前のCMからの情報を聞き、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現状の把握を日々の申し送りの中で理解している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	管理者がいつも総合的に把握し家族様、関係者へ連絡調整を行い、介護計画、モニタリングに反映している。	管理者と職員は、利用者や家族とも十分に話し合いを行い、ケアプランに反映させるようにしている。利用者の変化を確認できるモニタリングやカンファレンスを行い、柔軟にケアプランを見直しできるチーム体制となっている。	今後も利用者の変化や期間に捉われず、又、利用者や家族等からの新たな要望や意向がないような場合でも、利用者との日頃のケアの中で、思いや意向を把握し、ケアプランに反映されていかれることに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子観察を記録に残し、職員間で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりを支えるため、柔軟な考えを持つよう努めている。1Fは、塗り絵、読書、パズル、将棋、ドリル等、積極的にされている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括からお誘いを受け、公民館での体操教室へ参加され、地域の方との交流に努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月二回の訪問診療を実施し、また精神面の不安定な方が、不穏なく過ごされるよう、主治医以外の医師に来ていただき処方の方を相談されている。	協力医療機関による定期的な往診が行われている。事業所側では、往診前に利用者の前回往診時からの変化を整理し、往診前に医療機関にその変化を伝えていく。又、新たに訪問看護の受け入れも開始された。	継続して、訪問看護サービスの充実化を通じて、職員では対応できない医療面での利用者へのサービス向上に努めていかれることに期待したい。

31	<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>看護師の勤務がない為、管理者が直接、医師に上申し、指示を仰いでいる。</p>		
32	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>利用者の入院時は、病院側へアセスメントを渡し、退院時は病院側の相談員、病棟の看護師を交え、退院時カンファレンスを行っている。</p>		
33	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>病状の悪化時はホームで出来ることを家族様へ伝え、理解して頂き、入院を視野に入れ、対応している。</p>	<p>重度化や終末期の看取り方針は、本人と家族の意向を踏まえて、医療機関と事業所が連携をとり、本人と家族が安心して重度化や終末期を過ごせるよう取り組んでいる。特に家族には、事業所として出来ることと出来ないことを伝え、理解を得るよう努めている。</p>	<p>重度化や終末期の対応では、早期からの家族との話し合いと家族を含めた関係者全員との方針の合意、その後の状況の変化に応じた繰り返しの話し合いが必要となるが、継続して本人や家族の揺れ動く思いに寄り添いながら、対応されていかれることに期待したい。</p>
34	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急時の対応を掲げ、すべての職員が実践出来るよう努めている。また、全入居者の家族様から延命措置に関する意思確認書を頂いている。</p>		
35	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>防火訓練は年二回実施し、スタッフの周知に努めている。昨年12月は消防の方と合同訓練を実施する。</p>	<p>想定される火災発生に対し、消防署からの最適な避難対策のアドバイスを基に避難訓練を年2回、実施されている。</p>	<p>地域で想定される台風（水害）、地震等の地域での具体的な影響はある程度、把握できているかと思われるので、その上で、具体的な影響に対する避難対策を検討され、年2回の訓練にも変化をつけていかれることに期待したい。</p>

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員へ人格の尊重と、プライバシーの確保の大切さをしっかりと職員に認識してもらっている。	排泄や入浴介助等、利用者の人格やプライバシーの確保が必要な場合は、本人に気持ちを大切に考えながらさりげないケアの実践に努められている。	利用者の人格尊重とプライバシー確保を、全職員で維持していくことは難しいと思われるが、継続して、管理者を中心に職員間で日頃のケアの中で、お互いに確認しあうことを大切にされることに期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傾聴を大切にして、その中で、希望の表出を導き出すよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴、昼寝、レクリエーション等、利用者一人ひとりのペースに合わせながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節の変化を考慮し衣服の整理整頓を行い、補充の依頼を家族様に伝え、持参して頂いている。清潔不潔区分の困難な方はホーム側で管理している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	TVを中断し、CDを聞いて頂きながら、食事を楽しんで頂く。食事前の机拭き、食後、おぼんを洗う等のお手伝いをされている。	手作り食が提供されている。食事の準備等、利用者それぞれができることを担当してもらっている。食事中、職員は利用者へ声がけをしながら食事を楽しんでもらえるよう努めている。又、水分をたくさん補給してもらえるよう工夫もされている。	今後も食事に関する調理、盛り付け、配膳、後片付けなどを、利用者個々の力を活かしながら職員と利用者が一緒に行う機会を多くしていけることに期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている	栄養士によるカロリー計算のもと献立、調理を行っている。食事量水分量は時間、量を記録し、各入居者の食事形態を掲げ、提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをして頂いている。出来ない利用者は、職員が介助を行っている。今年、5月から歯科医の往診を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表にて記録し、個別に排泄パターンを理解し、声掛け、誘導を行っている。出来る限り、夜間オムツの方は、日中はトイレでの排泄を目指している。	排泄チェック表を基にトイレでの排泄を維持するために、行きたいときにトイレに行くことができるよう利用者へさりげなく声をかけ、排出介助に努めている。	今後も継続して、排泄の自立維持に向けて、排泄介助支援の様々な取り組みをされていけることに期待したい。又、健康に必要と言われている水分量補給にも関係すると思われるので、健康面の維持と合わせて取り組んでいけることに期待したい。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便も記録し、便秘の方は、水分の飲用、運動を心がけ、どうしても無理な場合はDr.に上申し、下剤の服用をして頂いている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日、時間は一応決めているが、利用者が入浴を拒否された場合は無理に入浴されず、時間を改めたり、曜日を改め、臨機応変に入浴を実施している。	入浴スケジュールは決めているが、利用者のその日の状態や希望を確認してから入浴スケジュールを調整されている。又、気持ちよく入浴してもらえるよう入浴剤等を活用し、季節感を感じてもらえるよう工夫されている。	今後も継続して、利用者の状態や希望にそった入浴スケジュールの調整を行いながら、入浴の場を利用者の思いや意向を確認できるコミュニケーションの場としても活用されていけることに期待したい。

46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個別で対応し、休めないと訴えるときは、傾聴に努めている。また、Dr. への上申を行い、眠前の服用をされ、様子観察に努めている。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服は調剤の方に管理して頂いている。内服の変更時は申し送りを行い、様子観察に努めている。錠剤の服用が困難な方は、粉碎し、拒否のある方は、副食に混ぜ、服用に努めている。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホームでのお手伝いをして頂くことで、張り合いを持って頂いている。洗濯干し、洗濯をたたむ、シーツ交換、モップ、等。		
49 18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	日課で散歩を取り入れている。また、近隣の小学校の行事に参加されている。また、家族様より前もって外出の要望をされたときは、準備をし、スムーズに出かけて頂けるよう努めている。	施設や地域のイベントに応じた外出支援と近隣への散歩等の個別の外出支援が行われている。又、家族とも気軽に外出を楽しんでもらえるよう配慮をしている。	継続して、外出を気分転換やストレスの発散、五感刺激の機会として、利用者全員が気軽に近隣への散歩等の外出を楽しめるよう取り組んでいかれることを期待したい。又、利用者別の外出支援プランも計画されていかれることに期待したい。
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自身で財布を所持されている方は、居られない。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話や手紙の希望があるときは、職員がお手伝いをさせて頂いている。		
52 19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、季節感あるものをスタッフが、居室前扉付近に提示している。	共有空間のリビング兼食堂は、清潔感あふれ明るく過ごしやすい空間となっている。利用者の方には、過去に体験した家族や家庭の記憶を施設の中で感じてもらえるよう家庭に近い環境を演出する様々な工夫をされている。	継続して家族と過ごした家庭に近い環境を感じてもらえるよう工夫されていられる中で、フロアの飾りつけ等を家族とも一緒に考えて、取り組んでいかれることに期待したい。
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子やソファにて、気の合った人同士で、過ごして頂いている。リビングに書箱があり、マイペースに読書をされている。		
54 20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は自身が馴染みあるものを置かれたり、居心地の良い空間作りの手伝いをして頂いている。また、職員が週に一度シーツ交換を実施し、環境整備を行っている。	各居室は、自宅との違いによる不安等を最小限にするために、利用者がその人らしく居心地よく過ごしてもらえるよう思い出の品等が置かれている。	他の利用者との共同生活の中で、継続して、プライバシーが確保され、安心して過ごせる居室づくりに取り組んでいかれることに期待したい。
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、トイレ、浴室には、大きく表札を提示し、わかりやすくしている。		

V アウトカム項目

56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての利用者として ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は活き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない